

平成 21 年度第 1 回評議員会議事録

1. 日 時：平成 21 年 6 月 20 日（土） 10：30～15：00

2. 場 所：岸記念体育会館 1 階会議室

3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

（加盟団体）北海道セーリング連盟：浜田賢(委)、青森県セーリング連盟：浅利正(委)、岩手県ヨット連盟：長塚奉司、宮城県セーリング連盟：勅使河原栄幸(委)、秋田県セーリング連盟：佐藤利秋(委)、山形県セーリング連盟：齋藤和久(委)、福島県セーリング連盟：広田喜世人、外洋津軽海峡：荒山雅仁(委)、外洋いわき：織田好孝(委)、茨城県セーリング連盟：朝田耕平、栃木県セーリング連盟：森谷茲允、群馬県セーリング連盟：中川淳、埼玉県セーリング連盟：谷正安、千葉県セーリング連盟：斉藤威、東京都ヨット連盟：鈴木修、神奈川セーリング連盟：小野澤秀典、山梨県セーリング連盟：羽田定造、新潟県セーリング連盟：細井房明、長野県セーリング連盟：横山真、NPO 静岡県セーリング連盟：中嶋浩二郎(委)、外洋東京湾：福田義一(委)、外洋三崎：川久保史朗(委)、外洋三浦：平松隆(委)、外洋湘南：榛葉克也、外洋駿河湾：山田良昭、愛知県ヨット連盟：森信和、三重県ヨット連盟：横田昌訓、岐阜県ヨット連盟：伊藤和典、外洋東海：大島茂樹(委)、富山県セーリング連盟：番匠茂、石川県セーリング連盟：石倉喜八朗(委)、福井県セーリング連盟：高間博之、滋賀県セーリング連盟：江口恒信(委)、京都府セーリング連盟：武市進作、外洋近北：守本孝造、兵庫県セーリング連盟：川上宏、奈良県セーリング連盟：安澤厚男、和歌山県セーリング連盟：山本嘉一(委)、外洋内海：妹尾達樹(委)、鳥取県セーリング連盟：富田博司(委)、島根県ヨット連盟：大西和彦(委)、NPO 岡山県セーリング連盟：山崎昌樹(委)、(財)広島県ヨット連盟：谷口正浩(委)、(社)山口県セーリング連盟：藤岡悍、香川県ヨット連盟：齋藤修(委)、徳島県ヨット連盟：石井良直(委)、愛媛県セーリング連盟：黒川重男、高知県セーリング連盟：文野順夫(委)、福岡県セーリング連盟：岩瀬広志(委)、佐賀県ヨット連盟：松山和興、長崎県セーリング連盟：最上修(委)、熊本県セーリング連盟：本田肇(委)、大分県セーリング連盟：後藤督(委)、宮崎県セーリング連盟：平島昇(委)、鹿児島県セーリング連盟：大迫哲弘(委)、外洋玄海：高木政一(委)、外洋南九州：宇都光伸

（特別加盟団体）全日本学生ヨット連盟：杉山嘉尚、(財)全国高等学校体育連盟ヨット専門部：澁谷有人(委)、(社)日本ジュニアヨットクラブ連盟：中根健二郎、全日本実業団ヨット連盟：外尾竜一、全日本自治体職員ヨット連盟：小宮三雄、日本ヨットクラブ連盟：中瀬昭(委)、日本 470 協会：五味克博、日本シーホッパー協会：九富潤一郎(委)、日本レーザークラス協会：福井洪一、日本ウィンドサーフィン連盟：千葉貴生(委)、日本シーホース協会：蛭子井貴(委)、日本 FJ 協会：古屋勇人、日本 OP 協会：国見悦朗、日本テザー協会：本吉讓治、日本 49er クラス協会：高野学(委)、東京ヨットクラブ：平生進一(委)、淡輪ヨットクラブ：太平洋和(委)、(社)関西ヨットクラブ：猪上忠彦、

大阪北港ヨットクラブ：吉田敬一(委)、南北海道外洋帆走協会：石川彰(委)、福岡ヨットクラブ：白石元英(委)、(社)江ノ島ヨットクラブ：星野博正、シーボニアヨットクラブ：才藤滋(委)、日本ヨットマッチレース協会：伊藝徳雄(委)、NPO ヨットエイドジャパン：岩瀬喜貞(委)、日本視覚障害者セーリング協会：秋山淳、日本 J24 協会：畠山知己、琵琶湖ヨットクラブ：青木英明(委)

以上、出席 85 名(内、委任状出席 45 名)

欠席評議員(順不同・敬称略)：外洋北海道：小澤貢一、外洋東関東：小屋忠史、大阪府ヨットセーリング連盟：岩崎洋一、沖縄県セーリング連盟：有銘兼一、日本スナイプ協会：古賀誠次、葉山マリーナヨットクラブ：大野稔久、日本ミニトン協会：山田忠雄

以上、欠席 7 名

その他出席者(順不同・敬称略)：

会長：山崎達光、副会長：秋山雄治、河野博文、植松真、専務理事：前田彰一、常務理事：児玉萬平、理事：斎藤渉、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、倭千鶴子、庄司一夫、小山利男、柴沼克己、山下記誉

監事：高木伸学、栗原博

顧問：米澤一、小田切満寿雄

委員会：増田開ルール委員長、末木創造ワンデザイン計測委員長、安藤淳会計委員長、武村洋一財務委員

以上、その他出席 23 名

4. 議題事項

- 1) 平成 20 年度事業報告(案)
- 2) 平成 20 年度決算報告(案)
- 3) 平成 21 年度第 1 次補正予算(案)
- 4) 連盟表彰
- 5) 加盟団体・特別加盟団体からの報告
- 6) その他(質疑応答・意見交換)

5. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 96 名中、出席 85 名(内委任状 45 名)で、寄附行為第 34 条 5 項に基づく定足数を満たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

寄附行為 34 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は畠山知己評議員に決定し、平成 21 年度第 1 回評議員会の開催を宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、広田喜世人、守本孝造の両評議員が任命され、承認された。

(山崎会長挨拶)

健康上の理由で前回 3 月の評議員会に出席できなかったことをお詫び申し上げます。平成 21 年度実行計画および方針について、まず第 1 に財政健全化について、昨年度経費削減をお願いしてきたが限界に達し、メンバー登録料の値上げに踏み切った。国際活動の強化などを含め JSAF の将来に向けた活動を行う予定である。資金活動および会員増強に向けた取り組みに関して更なる協力をお願いしたい。次にジュニア・高体連・学連・一般と一貫した組織体制を作っていく。本年度から開始されたジュニアセーリング・シーマンシップアカデミー事業の遂行、昨年文科省の承認を得た和歌山のナショナルトレーニングセンターの活用などもその一つである。2012 年ロンドンオリンピックに向けた選手強化も始まっており、2016 年東京オリンピック招致活動にも注力していきたい。評議員各位の一層の協力をお願いしたいとの挨拶があった。

(新潟県聖籠町 渡邊町長挨拶)

新潟県セーリング連盟の会長となり、一昨年秋田国体、昨年の大分国体も視察してきた。セーリング競技会場の聖籠町は、新潟市から北に 25 キロメートルの位置にあり、臨海工業地帯をもつ海の町であると同時にさくらんぼが名産など果樹の里でもある。昨年リハーサル大会で JSAF および関東ヨット協会の方たちにお世話になりました。この貴重な経験といろいろな忠告をベースに、トキめき新潟国体の成功に向け努力していきたい。選手ならびに関係者のお出でをお待ち申し上げますとの挨拶があった。

議題 1) 平成 20 年度事業報告 (案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 20 年度事業報告(案)について説明があった。

JSAF メンバー登録料および団体交付金の改定

本年度、財政健全化プロジェクトとして 5 項目にわたる財政健全化推進策と実施した。更に登録料検討委員会を設置してメンバー登録料の改定を検討してきた。全国で会員増強に向けた取り組みもあり、ここ 7、8 年間減り続けてきたメンバー数の減少が止まったが大幅に増員することは難しかった。理事会でも真剣に議論して、最終的に登録料の値上げと団体交付金の減額に踏み切った。

北京オリンピックおよび OP 世界選手権大会

北京オリンピックに 6 種目 9 選手が出場した。目標として「メダル獲得と複数種目の入賞」を掲げたが、結果としてメダルレースへの出場 2 種目、入賞は男子 470 級 1 種目に止まり、念願のメダル獲得はならなかった。また、7 月にトルコで開催の OP クラ

ス世界選手権大会において、若林選手が女子の部で優勝した。

国際セーリング競技規則の改定と資格認定・更新の実施

国際セーリング競技規則の改定があり、ルール委員会で規則またワンデザインクラス計測委員会で ERS を翻訳した。規則改定に伴い、本年 1 月より各地でジャッジおよびレースオフィサーなど資格更新のための講習会が開催された。

その他

- ・ 外洋レースのジャパンカップでは初めて IRC を採用、また日中韓親善レースが中国の山東省日照市で開催されエスメラルダが優勝した。
- ・ 大分国体より初めて少年(少女)の部に中学 3 年生が参加した。
- ・ ドーピング裁定委員会が開催され、日本ドーピング防止規律パネルの決定に基づく裁定を下した。大分国体でもドーピング検査が実施された。
- ・ 和歌山セーリングセンターが、5 月末文部科学省よりナショナル・トレーニングセンターとして認可された。
- ・ 北京オリンピック代表選手団壮行会には、高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、200 人以上の来場があり、盛大に開催された。
- ・ 東京オリンピック招致に関し、ISAF より副会長・事務局長 3 名が来日して会場予定地の若洲マリーナを視察した。
- ・ 環境委員会を主体に海の日キャンペーンを実施、全国で 34 イベントが開催された。

同意された。

議題 2) 平成 20 年度決算報告 (案)

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成 20 年度決算報告 (案) について説明があった。

一般会計

平成 20 年度決算は、当初予算策定時点で想定した単年度黒字決算化を実現するとともに、全般的な支出抑制により単年度で 322 万円の黒字化を達成することができた。しかし、本黒字決算は 4 年に 1 度のルール改訂に伴うルールブック販売収入等の一時的収入増、ならびに各事業委員会の支出抑制の結果である。事業活動収入は、事業収入のうちカレンダー販売収入、業務用品販売事業収入および補助金等収入、募金・寄付金等収入が、2 次補正予算を下回ったものの、加盟団体・特別加盟団体負担金収入、登録認定料収入、事業収入のうち大会・講習参加料事業収入、ルール・解説書等事業収入が 2 次補正予算を上回り、結果として 2 次補正予算比 20 万円増の 13,819 万円となり、ほぼ 2 次補正予算どおりとなった。事業活動支出は、事業費支出のうち各委員会関係の会議費支出及び旅費交通費支出、印刷製本費支出、大会講習会開催支出等の

支出を抑制したことから、2次補正予算比 338 万円支出減の 13,415 万円となった。この結果として、事業活動収支差額は同 317 万円増の 404 万円の黒字となった。投資活動収支差額は、昨年度の退職給与引当預金取崩収入および退職給与積立預金支出の是正処理を行ったこと、および事務局長退職金を実支出したことから、2次補正予算比 31 万円支出増の 81 万円支出となった。予備費支出は 36 万円の支出減となった。この結果、当期収支差額については、単年度収支ゼロバランスを目指した 2次補正予算比 322 万円増の 322 万円の黒字となった。上記の結果、次期繰越収支差額は、前期繰越収支差額 201 万円を加えて、2次補正予算比 322 万円増の 524 万円となった。

オリンピック強化特別会計

事業活動収入は、補助金等収入の内 JOC 委託金収入、JOC その他収入(特別強化対策収入、選手強化キャンペーン収入)が夫々2次補正予算比 76 万円増、375 万円増、負担金収入が 325 万円減となり、合計で2次補正予算比 132 万円増の 11,444 万円となった。事業活動支出は、事業費支出が2次補正予算比 462 万円下回ったものの、管理費支出が 217 万円上回り、合計で2次補正予算比 221 万円減の 11,656 万円となった。この結果として、事業活動収支差額は2次補正予算比 353 万円支出減の 211 万円の赤字となった。次期繰越収支差額は、投資活動支出としての舟艇購入支出を減じ、前期繰越収支差額の 3,692 万円を加え、2次補正予算比 255 万円増の 3,255 万円の黒字となった。この黒字は、従来どおり4年後のオリンピック開催へ向けた初年度経費に充当するものである。

免税募金会計

事業活動収入及び事業活動支出は、夫々2次補正予算比 252 万円増の 3,342 万円となった。事業活動収入増は、すべて免税募金収入の増額によるものであり、事業費支出 246 万円、一般会計への繰入金支出 6 万円を夫々増額させ処理した。

環境特別会計

事業活動収入は、2次補正予算比 51 万円減の 469 万円となった。事業活動支出は、2次補正予算比 37 万円減の 437 万円となった。事業活動収支差額は、2次補正予算比 13 万円減の 32 万円となった。当期収支差額は、2次補正予算比 13 万円減の 32 万円となった。次期繰越収支差額は、前記繰越収支差額 207 万円を加え、240 万円となったとの発言があった。

安藤会計委員長から、補足説明があった。

一般会計収入の部において、会費収入(賛助会費および特別賛助会費)は、2次補正予算比 62 万円減の 785 万円となった。加盟団体負担金収入は、2次補正予算比 65 万円増の 4,965 万円となった。特別加盟団体負担金収入は、2次補正予算比 29 万円増の 199 万円となった。登録認定料収入は、2次補正予算比 85 万円増の 552 万円となった。事業収入関係については、カレンダー販売収入、業務用品販売事業収入、

総合賠償保険料収入が、それぞれ 2 次補正予算比 43 万円減、172 万円減、66 万円減となったが、大会・講習会参加料事業収入、ルール・解説書等事業収入が、それぞれ 2 次補正予算比 178 万円増、245 万円増となり、総額で 2 次補正予算比 110 万円増の 2,320 万円となった。なお、大会・講習参加料事業収入増の大半は、HYIC 主催レースエントリー費用の JSAF 会計への収支計上によるもの、ルール・解説書等事業収入増は、4 年に一度の ISAF ルール改訂に伴うルールブック販売の一時的収入増を含んだものである。募金・寄付金等収入については、2 次補正予算比 118 万円減の 2,572 万円となった。

支出の部において、事業費支出については、2 次補正予算比 511 万円減の 8,007 万円となった。これは、業務委託費支出が 334 万円支出増の 929 万円となったものの、会議費支出、旅費交通費支出、印刷製本費支出を、夫々 238 万円減、269 万円減、157 万円減等と抑制した結果である。なお、業務委託費支出の 334 万円増の主な要因は、公認会計士のご指導により、IRC 計測委員会事業関係費用の一部を業務委託費として計上したことによるものである。また、J-Sailing の編集費支出分が 2 次補正予算比増となっているが、印刷費と発送費を含めた J-Sailing 関係費用総額では、2 次補正予算内に収まっている。大会・講習会開催支出の 333 万円減、雑支出の 228 万円増の主な要因は、大会・講習会開催支出として予算計上した IRC 計測委員会事業関係費用の一部を、同様に公認会計士のご指導により、雑支出として計上したことによるものである。管理費支出については、2 次補正予算比 182 万円増の 4,337 万円となった。これは、事務局退職金を含む人件費支出が 85 万円増、運営費支出が JSAF 本部扱い会議費、通信運搬費、印刷製本費支出等が 96 万円増となったことによる。

オリンピック特別会計収入の部において、補助金等収入は、JOC 委託金収入、JOC その他収入が、それぞれ 2 次補正予算比 76 万円増の 2,693 万円、375 万円増の 1,525 万円となった。負担金収入は、エントリー収入は 2 次補正予算比 381 万円増の 453 万円となったが、事業参加料収入（選手・役員負担金）が 707 万円減の 1,392 万円となり、合計で 2 次補正予算比 325 万円減の 1,846 万円となった。事業活動収入合計では、2 次補正予算比 132 万円増の 11,444 万円となった。

支出の部において、事業費支出計 10,473 万円の主な内訳は、JOC 委託事業費支出 4,133 万円、負担金支出 788 万円、自主計画事業支出 1,453 万円、管理費支出 678 万円、一般会計繰入金支出 505 万円である。事業活動支出合計では、2 次補正予算比 221 万円減の 11,656 万円となった。当期収支差額および次期繰越収支差額で、上記 および投資活動支出増（舟艇購入支出 225 万円）予備費支出 127 万円減により、当期収支差額は 2 次補正予算比 255 万円マイナス分が減り、437 万円となった。次期繰越収支差額は、当期収支差額 437 万円に、前期繰越収支差額 3,692 万円を加え、2 次補正予算比 255 万円増の 3,255 万円となったとの発言があった。

高木監事から、平成 20 年決算書監査報告があった。

京都府セーリング連盟武市評議員から、決算報告の際に監事報告があったが、監事のうち 1 名が委員長を兼務していると聞いている。業務監査をする監事が委員長をすることには法令違反の問題があるのではないか。また、本年度より専務理事と事務局長が兼務しているが、組織のあり方として問題はないか。理事会の総意として回答をしていただきたいとの発言があった。

高木監事から、京都府連中山氏(前理事)からも同じ意見をうかがい、委員長については早急に交代するよう理事会に要請している。ただし、平成 20 年度監査報告とは直接関係ないとの回答があった。

児玉常務理事から、指摘のあった外洋安全委員会で浪川委員長はすでに辞任しており、野口副委員長が代行している。現在、当委員会では交代する委員長を人選している。

野野副会長から、専務理事と事務局長の兼務については、JSAF はこれまで別な人がなっていた。一般的に小規模な公益法人では、専務理事と事務局長の兼務している団体も多く、珍しいことではない。JSAF では財政的にみて二人分の報酬を支払うことは困難であり、これまでの実績を踏まえて会長が専務理事に事務局長をお願いしている。将来はまた元に戻ることもあるかもしれないが、組織的に見て兼務が異常であるとはいえないとの回答があった。

同意された。

議題 3) 平成 21 年度第 1 次補正予算 (案)

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成 21 年度第 1 次補正予算 (案) について説明があった。

一般会計

平成 21 年度当初予算は、各委員会提出の事業計画、予算要求を踏まえつつも、経済情勢が依然として長期低迷する見込みであること、およびこれに伴う行財政支出の見直し懸念が払拭できないことから、収入面では、会費収入 (賛助会費、特別賛助会費収入) 加盟団体負担金 (メンバー会費) 収入、事業収入、補助金等収入、負担金等収入について不確定要素があること、さらには新公益法人移行のための財政健全化要件充足化の観点からも、少なくとも平成 21 年度中は継続的な財政健全化取り組みが必要であるとの認識に立ち策定し、平成 21 年 2 月理事会・同年 3 月評議員会にて承認をいただいた。今般、平成 21 年度委員会の組織再編成に対応して、先の理事会、評議員会での一般会計当初予算総額の範囲内で再編成すること、および新たにモバイル寄付金関係の収支を反映させたこと、日本財団助成事業助成金関係 (ジュニアアカデミー事

業を含む)に対する補助金関係の各収支が確定したこと等により、1次補正予算を策定するものである。

オリンピック強化特別会計

平成 21 年度予算策定後、補助金収入が確定し、これに伴い事業費支出が変更となったため、1次補正予算を策定した。事業活動収入は、補助金等収入が当初予算比 2,984 万円増加したため、9,234 万円とした。負担金収入が当初予算比 250 万円増加したため、2,150 万円としたことにより、事業活動収入計を 3,234 万円増の 13,809 万円とした。事業活動支出は、補助金等収入増に対応して、当初予算比 3,834 万円増の 14,802 万円とした。事業活動収支差額は、当初予算比 599 万円支出増の 993 万円とした。これらの結果、及び予備費支出計上を見送り、当期収支差額は当初予算比 493 万円支出増の 993 万円とした。

免税募金特別会計

事業活動収入は、モバイル寄付金関係を追加計上したことにより、当初予算比 650 万円増の 2,383 万円とした。モバイル寄付金関係事業活動収入増に伴い、事業活動支出については、事業費を当初予算比 19 万円増(モバイル寄付金日体協納付分)の 92 万円とし、繰入金支出については、当初予算比 630 万円増の 2,290 万円とした。

環境特別会計

事業活動収入については、繰入金である免税募金収入(モバイル寄付金分)を当初予算比 190 万円増加させことに伴い、これを 416 万円とした。結果として、当期収支差額が当初予算比 190 万円増加し 106 万円の黒字となり、次期繰越収支差額についても、同額を増加し 534 万円としたとの発言があった。

安藤会計委員長から、平成 21 年度第 1 次補正予算(案)につき補足説明があった。

委員会組織再編に伴う予算の再編成は、JSAF 委員会对比表および平成 21 年度 1 次補正予算(案)委員会別内訳を参照していただきたい。なお、外洋統括委員会として一括予算計上していたものは、外洋 3 委員会へ予算を再配分した。具体的には、外洋総務委員会旅費交通費支出を減額し、相当額を外洋総務委員会外洋レースマネジメントマニュアル、その他統括業務、外洋安全委員会安全会議、通信会議支出へ充当した。上記委員会組織再編に伴う予算再編成とは別に、ワンデザイン計測委員会は、来年度より事業収入を見込む IHC 認定関係 ISAF 講習会費用を追加計上し、ERS 更新認定料関係収支を増額した。国際委員会は、ISAF・ASAF 総会に連盟役員出席をお願いしたことから、旅費・宿泊費を追加計上した。総務委員会の予備費(304 万円)を 100 万円単位(300 万円)に修正し、当初予算との差額 4 万円は当期収支差額へ計上した。

モバイル寄付金関係収支を追加計上した。事業委員会(事業開発委員会)にモバイル端末代金収支(1344 万円)(一旦 JSAF 受入、携帯電話会社へ利用料支払)およびモバイル寄付金収入(事務管理費 57 万円)支出(事務管理費 45 万円)を追加計上し

た。外洋総務委員会にモバイル寄付金（ジャパンカップ）収支（150万円）を追加計上した。モバイル寄付金は、モバイル端末代金分を除き総額で650万円であり、上記総額440万円の他に、環境会計へ190万円を計上し、手数料として日体協へ19万円を納付している。日本財団助成事業助成金は、指導者委員会の全国安全講習会関係収支を確定値に修正した。普及委員会の日本財団助成事業助成金関係収支を確定値に修正した。ジュニアアカデミー委員会は、確定した日本財団助成事業助成金関係収支を新規計上した。

上記の結果、事業活動収入は当初予算比2,461万円収入増の15,959万円とした。事業活動支出は、事業活動収入増に応じて当初予算比2,493万円支出増の15,386万円とした。この結果、当期収支差額は当初予算比27万円減の573万円としたとの発言があった。

三重県ヨット連盟横田評議員から、平成21年度予算に関し、会員増強の予算計上はされているか。また、平成20年度財政委員会報告の文言や雑誌「KAZI」の井田氏の記事も参照されたいとの質問があった。

河野副会長から、特別な予算を取ってはいない。財政健全化プロジェクトのなかで検討していく。更新者一人ひとりに手紙を出すなどメンバーが増加した団体の取り組みも参考になる。オリンピックでのメダル獲得も会員増強につながっていくと思われるとの発言があった。

秋山副会長から、財政健全化としてグッズ販売や資格制度など収入源の検討のほかに、会員増強については制度的な見直しも必要と考えているとの発言があった。

同意された。

平成21年度連盟定期表彰

平成21年度連盟表彰があった。栄光賞に松永鉄也氏・上野太郎氏（2008年北京オリンピック競技大会470級7位入賞）、若林友世氏（2008年IODA世界選手権大会女子部優勝、優秀競技者賞に富沢慎氏（2008年北京オリンピック競技大会RSX級10位）を表彰した。

加盟団体・特別加盟団体報告

- 1) 岩手県セーリング連盟の長塚評議員から、ジュニアセーリングアカデミー事業などについて報告があった。
- 2) 福島県セーリング連盟の広田評議員から、国体選手の他県移動についての報告があっ

た。

- 3) 茨城県セーリング連盟の朝田評議員から、ヨットハーバー運営企業の倒産問題等で、連盟でハーバー対策委員会を立ち上げていただきたいとの発言があった。
- 4) 栃木県セーリング連盟の森谷評議員から、選手層の高齢化で若手育成が課題との発言があった。
- 5) 群馬県セーリング連盟の中川評議員から、栃木県連と同水域で毎月 1 回レース活動を実施しているとの報告があった。
- 6) 埼玉県セーリング連盟の谷評議員から、昨年度インターハイの御礼があった。また、高校合併問題からヨット部の廃部について報告があった。
- 7) 千葉県セーリング連盟の斉藤評議員から、本年度国体リハーサルが稲毛海岸で開催する。また、最近海面の風や潮が変化していることが心配されるとの発言があった。
- 8) 東京都ヨット連盟の鈴木評議員から、2016 年東京オリンピック招致活動について、本年 4 月 17 日に IOC 視察報告があった。また、本年 7 月 31 日～8 月 2 日ジュニア国際大会が開催されるとの報告があった。
- 9) 神奈川県セーリング連盟の小野澤評議員から、本年 6 月 12～14 日にアクセスディンギー国際大会が開催された。8 月 8～9 日、江ノ島でヨット体験教室が実施される。10 月 16～18 日、江ノ島オリンピックウィークを開催するとの発言があった。
- 10) 新潟県セーリング連盟の細井評議員から、第 64 回国民体育大会トキメキ新潟国体セーリング競技の開催について報告と協力依頼があった。
- 11) 外洋湘南の榛葉評議員から、去る 5 月 23 日開催の大島レースについて、ブログ等にアップして携帯サイトからアクセスできるようにしたとの報告があった。
- 12) 外洋駿河湾の山田評議員から、7 月 26 日開催の清水・沼津間ファミリーレースならびに 8 月 2 日開催の駿河湾カップ（タモリカップ）について報告があった。
- 13) 愛知セーリング連盟森評議員から、5 月 24 日開催のエリカカップは 100 艇以上の参加を得て成功裏に終了した。また、7 月 20 日に外洋東海設立 50 周年記念パーティが開催されるとの発言があった。
- 14) 三重県ヨット連盟の横田評議員から、個人的意見になるが、地方と都市部との意見交換ができる場所を提供いただきたいとの発言があった。
- 15) 富山県セーリング連盟の蕃匠評議員から、本年 10 月にドラゴン級全日本大会開催について報告があった。
- 16) 京都府セーリング連盟の武市評議員から、平成 14 年度から学生メンバー登録方法について議論されてきたが、組織の根幹にかかわる問題であるから、総務委員会の提案について明確な方針を示していただきたいとの発言があった。
- 17) 外洋近北の守本評議員から、日本海でもレースは開催されていることから、県連と外洋団体と連携を密にして運営スタッフを育成することが課題であるとの発言があった。

- 18) 兵庫県セーリング連盟の川上評議員から、ジュニアセーリング体験教室からジュニアセーラーの発掘を進めたい。また、8月29~30日にSS級およびシーホッパーSRの大会を実施するが、西宮市の大々的なバックアップをいただけるとの発言があった。
- 19) 奈良県セーリング連盟の安澤評議員から、本年度インターハイは和歌山県連のご協力の下、和歌山で開催するとの発言があった。
- 20) 山口県セーリング連盟の藤岡評議員から、指導者育成に関しては、県体協などとジュニアアスリートアカデミーの企画を考慮しているので、連盟の協力をお願いしたいとの発言があった。
- 21) 愛媛県セーリング連盟の黒川評議員から、5月23~24日、ファミリーレースを実施した。しまなみ海道(セールアートしまなみ)ヨットミーティングを海の道をベースにイベントを開催するとの発言があった。
- 22) 佐賀県ヨット連盟の松山評議員から、県体協も財政難で補助金が削減されている。7月25日~8月10日、レーザーラジアルワールドが開催されるとの報告があった。
- 23) 外洋南九州の宇都評議員から、錦港湾では行政の協力も得てレースを多数開催している。7月22日皆既日食も観測できる火山めぐりレースが開催される。また、映画『海の金魚』が来春公開予定とされており、全面的に協力している。鹿児島ではマリナーがないことから、連盟の力添えをいただきたいとの発言があった。
- 24) 日本ジュニアヨットクラブ連盟の中根評議員から、7月31日~8月2日ジュニア国際大会が世界11カ国参加の下、開催されるとの報告があった。
- 25) 全日本実業団ヨット連盟の外尾評議員から、昨今の経済不況で企業ヨット部が減少している。また、シーホース協会では年間2回大会を開催しているが、企業スポンサーは見込めないことから、個人レベルでの開催が現状であるとの報告があった。
- 26) 日本レーザークラス協会の福井評議員から、レーザーラジアルワールド開催に際して運営ボランティアを募集しているとの発言があった。
- 27) 日本OP協会の国見評議員から、本年3月ワールド選考レースに21名を派遣したが、世界で戦える選手が育ってきている。反面、スポーツマンシップ問題については、技術向上のみならず、精神面も断続的に指導していきたいとの発言があった。
- 28) 日本テザー協会の本吉評議員から、本年度和歌山でテザーワールド開催について報告があった。
- 29) 関西ヨットクラブの猪上評議員から、外洋レースへの取り組みについて、外洋内海主催の紀伊水道レース復活も鑑みて考慮していきたい。クルーザーセール番号登録について、安全問題からもセールメーカー等と協力して推進していきたいとの発言があった。
- 30) 江ノ島ヨットクラブの星野評議員から、第50回記念パールレースについて報告があった。
- 31) 日本視覚障害者セーリング協会の秋山評議員から、ブラインドセーリング協会創立13

年目の御礼があった。2013年に日本でワールド開催の予定であるとの発言があった。
32)日本 J24 クラス協会の畠山評議員から、米国アナポリスで J24 ワールド報告があった。
来年はスウェーデンで開催するとの発言があった。

委員会報告

- 1) 庄司総務委員長から、総務委員会報告があった。平成 22 年度メンバー登録の改善に向けた論点と対策について、学生メンバーとシニアメンバーの取り扱いについて平成 22 年度内解決に向けて検討を進める。公益法人改革 3 法施行への対応について報告があった。国民体育大会功労者表彰者の推薦について依頼があった。
- 2) 斎藤ジュニアアカデミー委員から資料に基づき、ジュニアセーリング・シーマンシップアカデミーについて報告及び案内があった。平成 21 年度ジュニアセーリング・シーマンシップアカデミーは 4 回実施し、各地のジュニアユース参加者に好評を得ている。現在、14 回実施予定としているが、本年度 30 回を目標としているので、各加盟団体等で応募いただきたいとの発言があった。
- 3) 小山(泰)指導者委員長から資料に基づき、指導者委員会報告があった。平成 21 年度全国安全指導者養成講習会は 11 月 14~15 日で東京夢の島マリーナで開催する。なお、講習会講師を募集しているとの発言があった。
- 4) 前田専務理事から資料に基づき、普及委員会報告があった。平成 21 年度日本財団助成金事業報告書について説明があった。
- 5) 前田専務理事から資料に基づき、2009 年 5 月 31 日現在のメンバー登録数について報告があった。

質疑応答・意見交換

- 1) 川上評議員から質問書に基づき、JSAF メンバーカード発行業務について、新規登録者カード発行の迅速化に向けて取り組んでいただきたい。JSAF 各種資格管理について、データメンテナンスも含めて、各委員会とのシステム化を期待したいとの発言があった。
- 2) 齋藤評議員から質問書に基づき、国体にセーリング競技が存続するため、国体艇種のあり方について検討いただきたい。特に、SS 級導入が進んでいないことを真剣に受け止めていただきたいとの質問があった。
- 3) 畠山評議員から質問書に基づき、セーリング普及の観点からジュニア、高校生、大学生、社会人、キールポートへの「ステップアップ」という視点から JSAF で政策を考慮いただきたいとの発言があった。

以上、平成 21 年度第 1 回評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 21 年 6 月 20 日

議 長 畠 山 知 己

議事録署名人 広 田 喜世人

議事録署名人 守 本 孝 造